

## 現場に役立つ日本語教育研究—経験からデータへ—

山内博之

### 1. 監修者から見た「現場に役立つ日本語教育研究シリーズ」

#### 第1巻『データに基づく文法シラバス』庵功雄・山内博之（編）

★12人の著者がそれぞれの方法で文法シラバスについて考察した。

①初級文法と中級文法の境界がわかった。⇒ 活用が分水嶺

②初級文法と中級文法の違いがわかった。⇒ 積み上げか並列か

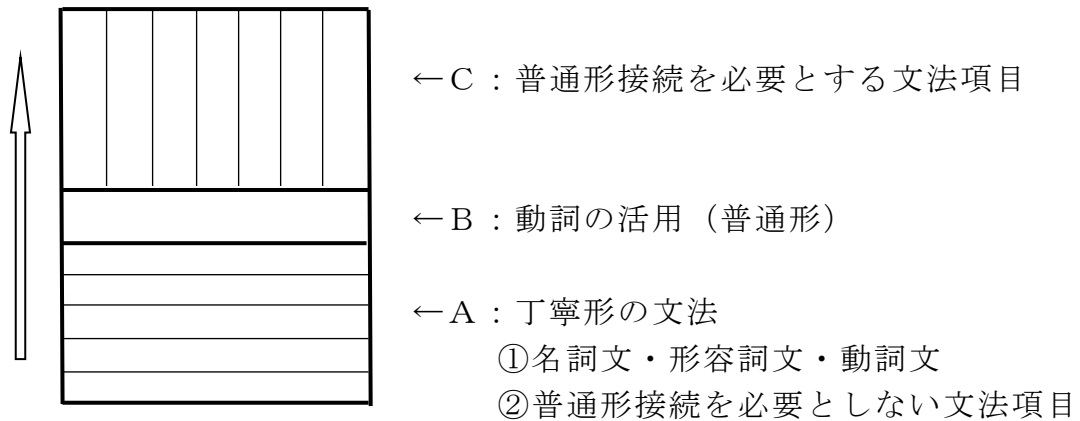


図1 文法シラバス（産出）の構造

#### A : 丁寧形の文法

- (1) (名詞) は (名詞) です。
- (2) (名詞) は (ナ形容詞) です。
- (3) (名詞) は (イ形容詞) です。
- (4) (名詞) は (動詞) ます。
- (5) (名詞) は (動詞) たいです。
- (6) (動詞) ませんか。

#### C : 普通形接続を必要とする文法項目

- (7) (動詞普通形) ようです。
- (8) (動詞普通形) のです。
- (9) (動詞普通形) なら、～。
- (10) (動詞ナイ形) られます。
- (11) (動詞ナイ形) させます。
- (12) (動詞ナイ形) なければいけません。

## 第5巻『コーパスから始まる例文作り』中俣尚己（編）

★旧日本語能力試験 1、2 級レベルの 119 の機能語を 10 カテゴリーに分類し、BCCWJ を用いて分析した。

- ①同じカテゴリーに属する機能語の違いがわかった。
- ②BCCWJ を使用した機能語の分析方法がわかった。
- ③分析には「熟練」「研究者としての勘」が必要であることがわかった。

表1 各章の機能語と見出しの数

各章で扱ったカテゴリー	機能語数	見出しの数
話題・対象（第1章）	9	19
状況・場合（第2章）	13	6
時（第3章）	16	6
様子・予想・傾向（第4章）	11	9
条件・逆接条件（第5章）	17	11
原因・理由（第6章）	10	13
逆接（第7章）	10	19
意志・願望・判断（第8章）	12	20
伝聞（第9章）	9	20
否定（第10章）	12	9
合計	119	132

表2 切り口の観点から見た見出しの分類

切り口発見の難易度	切り口の観点	見出しの数
易	文のスタイル	19
	主観・客観	6
	意見・説明	13
	プラス評価・マイナス評価	11
やや難	出現数・出現形式・出現位置	11
	前接語	8
	基本的な文法	4
	動詞の種類	5
難	モダリティ	16
	テンス・アスペクト	9
	複文的要素	5
	文脈	9
	意味・機能の記述	16
合計		132

逆接を表す表現（第7章）の見出しの例

●文のスタイル

(13) 常体のみに使用される「だが」

●前接語

(14) 前接する動詞はほぼ同じ

(15) 違いは接続形式

●モダリティ

(16) 「はず」と相性のいい「それなのに」

(17) 意思表示の動詞とよく合う「にもかかわらず」

(18) 働きかけの文に続く「でも」

第2巻『ニーズを踏まえた語彙シラバス』森篤嗣（編）

★第一部 アプローチ別語彙シラバス論（6本）

第二部 ニーズ別語彙シラバス論（6本）

①語彙に関しては共通認識となるシラバスがないことがわかった。

②ニーズ別語彙シラバスの作成方法がわかった。

③対数尤度比、カバー率などの概念理解、いくつかのツールへの習熟が必要。

④特徴度が高い語は名詞に多い。⇒ 名詞を制する者が語彙シラバスを制する。

表3 品詞別に見た BCCWJ の延べ語数と異なり語数

品詞	延べ語数	異なり語数	延べ語数/異なり語数
助詞	31,428,580	139	226,105
助動詞	10,279,970	71	144,788
連体詞	997,276	48	20,777
接続詞	481,094	35	13,746
代名詞	1,516,372	121	12,532
接尾辞	3,346,976	779	4,297
接頭辞	868,076	268	3,239
形容詞	1,588,226	794	2,000
動詞	14,148,216	9,540	1,483
形状詞	1,314,004	1,689	778
副詞	1,830,329	3,071	596
感動詞	161,716	371	436
名詞	36,651,588	168,210	218
合計	104,612,423	185,136	565

## 第6巻『語から始まる教材作り』岩田一成（編）

### ★第一部 語彙指導を支える知恵と工夫（5本）

第二部 教材案Ⅰ：コース単位で利用できるアイデア（5本）

第三部 教材案Ⅱ：授業単位で利用できるアイデア（6本）

- ①語彙教材を作成する際には「教材作成の基になる語彙リスト」が用いられることが多いことがわかった。山内編(2013)『実践日本語教育スタンダード』（ひつじ書房）などの既存の語彙リストや自作の語彙リストを使用していた。
- ②ここで言う「教材作成の基になる語彙リスト」とは、2巻の「語彙シラバス」のことである。⇒2巻は「ニーズ別語彙シラバスがあって教材を作る」という理念を実行するための足がかり。

【教師の時代】 ⇒ 【教科書の時代】 ⇒ 【スタンダードの時代】  
 （個別化）                      （標準化）                      （標準化された個別化）

図3 教育の移り変わり

## 第3巻『わかりやすく書ける作文シラバス』石黒圭（編）

### ◆JCK 作文コーパスの構築

	説明文	意見文	歴史文	合計
日本語母語話者	20	20	20	60
中国語母語話者	20	20	20	60
韓国語母語話者	20	20	20	60
合計	60	60	60	180

\*説明文：客観的な主張であって、主観的にならないように書く。

- ・自分の故郷について（2000字）

意見文：説明ではなく、根拠とともに自分の主張を書く。

- ・晩婚化の原因とその展望について（2000字）

歴史文：時間軸に沿って、ある出来事や経緯を書く。

- ・自分の趣味（昔から続けていること）について（2000字）

### ★JCK 作文コーパスを分析した。

第一部 正確で自然な日本語で書く。（5本）

- ①ボイス ②テンス・アスペクト ③モダリティ ④複文 ⑤句読点

第二部 流れがスムーズな日本語で書く。（5本）

- ①指示詞 ②情報構造 ③接続詞 ④序列構造 ⑤視点

第三部 説得力のある日本語で書く。（3本）

- ①段落構成 ②全体構造 ③例・根拠・たとえ

## 第4巻『自由に話せる会話シラバス』俵山雄司(編)

## ◆課題別会話コーパスの構築

		説明	アドバ イス	話し 合い	書かれたもの へのコメント	伝言の 伝達	弁明	訂正	合計
日本語母語場面		5	5	5	5	5	5	5	35
接 触 場 面	中国語	10	10	10	10	10	10	10	70
	韓国語	4	4	4	4	4	4	4	28
	英語	3	3	3	3	3	3	3	21
	ベトナム語	3	3	3	3	3	3	3	21
合計		25	25	25	25	25	25	25	175

\*文字化の方法はBTSJに準拠。

## ★課題別会話コーパスを構築し、分析した。

第一部 きちんと話すための課題別シラバス(7本) ←コーパスの7課題

第二部 楽しく話すための目的別シラバス(5本)

- ①ことばをつなげて長く話す ②生き生きと話す ③ターンの受け渡し  
④詳細に説明する ⑤相手に気分よく話させる

## 2. 日本語教育研究者のためのシリーズ本

## 【研究者とは】

「教師」とのやりとりによって「学習者」の日本語能力を高めていく場が、日本語教育の「現場」である。そして、その「現場」を外から眺めて分析・考察し、「現場」のレベルを高めることに寄与しようとする者が「研究者」である。

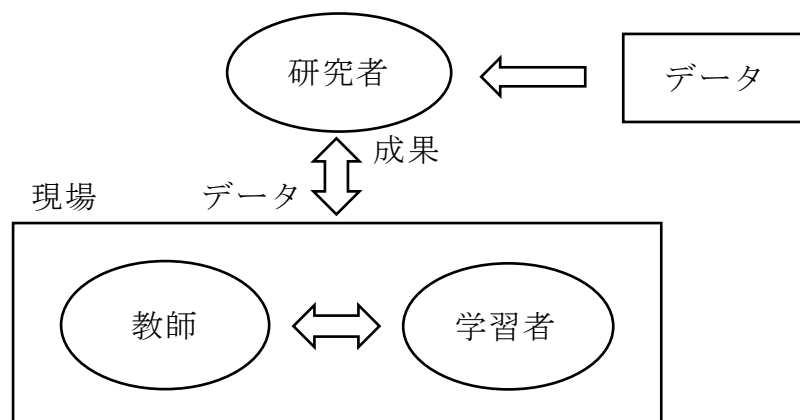


図2 研究者と教師、学習者、現場の関係

### 【日本語教育学とは】

「研究者」は、「現場」を眺め、「現場」に寄与するべく、「現場」に関する分析・考察を行う。その分析・考察によって作り上げられる知識の体系が「日本語教育学」である。

### 3. 監修者の感想

- ①データは絶対的に重要。しかし、勘や経験も重要。
- ②教師としての勘・経験と研究者としての勘・経験のどちらも重要。
- ③勘が働き、問題意識が先鋭化すると、データを見る意欲や解析手法を覚える意欲がわいてくる（BCCWJ、中納言、対数尤度比、N グラム統計・・・）。時には、シラバスやコーパスを作成する意欲もわいてくる。
- ④×現場に役立たせる  
○面白い！ ⇒ 現場に役立った（かもしれない・・・）
- ⑤本シリーズを踏み台にしてほしい。

参考：

- 「現場に役立つ日本語教育研究シリーズ」（全6巻）山内博之（監修）
- 第1巻『データに基づく文法シラバス』庵功雄・山内博之（編）2015年6月
  - 第2巻『ニーズを踏まえた語彙シラバス』森篤嗣（編）2016年10月
  - 第3巻『わかりやすく書ける作文シラバス』石黒圭（編）2017年12月
  - 第4巻『自由に話せる会話シラバス』俵山雄司（編）2023年4月
  - 第5巻『コーパスから始まる例文作り』中俣尚己（編）2017年6月
  - 第6巻『語から始まる教材作り』岩田一成（編）2018年10月

付記：

本シリーズにおける研究は、人間文化研究機構国立国語研究所領域指定型共同研究プロジェクト「学習者コーパスから見た日本語習得の難易度に基づく語彙・文法シラバスの構築」の成果の一部です。このような研究の機会を与えてくださったことに記して感謝の意を表します。